

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『大日本美術新報』 総目次

大日本美術新報 第一卷目次

● 第一号 (明治十六年十一月三十日)

論説

大日本美術新報緒言

大内青巒

3

美術概論(一)

河瀬秀治

4

龍池会記事

明治十六年十月例会記録

8

第一回巴里府日本美術縦覧会記事

10

雑記

漆器品評

17

画工の注意

19

日本音楽の沿革

19

詩の美術なる事

19

雑報

御書架

19

御置物

20

油画

20

共進会列品心得

20

殊勝の志

20

波士敦博覧会

20

笙の名人

21

京都画師統計

21

第四回観古美術会

21

問答

鈎勒法の問

21

右答

22

神代楽器の問

22

陶画権輿の問

22

文人画の問

22

天然美術の問

22

改正龍池会規則(折込)

25

● 第二号 (明治十六年十二月三十一日)

	論説			
	仏人モンテギユ氏美術略論(一)	モンテギユ述 平山成信訳	27	深江翁
	龍池会記事	京都画事集談会		
	明治十六年十一月例会会記録(一)	浮世絵共進会		
	第四回観古美術会記事(一)	陶器共進会	29	
	雑記	西陳哀頌	33	
	名物品評	問答		
	歌舞音曲	対問	36	
	観物悟筆法	粉本の問	37	
	有声之画	落款々識の問	39	
	詩伯の書翰	古代舞踏の問	39	
	雑報	竹の問	39	
	御襖の画	十八番の問	40	
	油画の大額	馬蹄香の問	40	
	日本画の写	右答	40	
	白耳義美術	●第三号 (明治十七年一月三十一日)	41	
	陶器	論説	41	
	御前揮毫	美術概論(一)	41	河瀬秀治
	コンテール氏	龍池会記事	41	
	古画模写	明治十六年十一月例会会記録(一)	42	54

	明治十六年十二月例会記録	55			
	第四回観古美術会記事(一)	57			
	龍池会記事附録	60			
雑記					
	日本美術縦覧会評論	61			
	巴里美術博覧会統計	62			
廻文					
	絵具顔料調査	63			
	仏国美術学校規則(一)	64			
雑報					
	晴天鶴	65			
	謡初	66			
	七宝会社	66			
	画学校始業式	67			
	漆器協会	67			
	漆器製造家飢に泣く	67			
	音曲卒業	67			
	耕石翁死	67			
潤額		68			
	陶器商結社				68
	粉本借覧				68
	美術学校				68
	筆墨共進会				68
	日本画譜				69
	問答				
	南北画法異同の問				69
	右答				69
	粉本の答				70
	竹の答				70
	画祖の問				70
	園治の問				70
	●第四号(明治十七年二月二十九日)				73
論説					
	仏人モンテギユ氏美術略論(一)				75
	龍池会記事				
	明治十七年二月例会記録				78
	第二回巴里府日本美術縦覧会記事(一)				80
	モンテギユ述 平山成信訳				75
	養老仙史				70
	佐々木良庵				70
	川崎千虎				70
	柳丘老漁				70
	下條正雄				69
	恭宇逸史				69

雜報

下賜

繪画

画師加地為助氏

漆産

裝飾図按要旨

製漆諮問会

名工の追福

同好社

問答

鳳凰堂壁画の答

画祖の答

紫水晶の問

和歌無落款の問

幽霊画の問

彫刻師鼻祖の問

●第六号 (明治十七年四月三十日)

論説

品評の説

美術品と古物品及び美術家と古物家とを論ず
今泉雄作 127

龍池会記事
巴里陶磁博覧会出品に付幹事会記事(一)
129

第二回巴里府日本美術縦覧会記事(二)
131

仏国出品不相成絵画返却に付各地方官へ御照会案
131

雜記
小松諫言
132

九谷陶窯沿革(一)
133

ラグサ氏の書翰
ラグサ
134

繪事小言(一)
田嶋定邦
135

雜報
第二回絵画共進会
138

繪画学校
139

絵画の国債
139

助教
139

第四鑑画会
139

学校雛形出品
139

英人善画
140

故莊田瞻斎翁
140

徽宗帝の山水
140

フヒロー述
123

江涯生記
123

雑記

画歌駢話

松花堂略伝

瀬戸窯

美術品展覧会(一)

真瀬木真哉氏

守住貫魚翁の歴譜

観雪舟画善導大師像(漢詩) 養鷗徹定

雑報

日本の絵画

明宮御殿御襖

勳章拝授

堅緻花磚

京都画学校

画学新編

画学校

私立絵画共進会

東洋陶器集覧会

池原日南翁

千枚達磨

古画出品

名画の掘出物

絵画売却

王家の宝物市に売らる

銅器彫鐫工

李仏戦争の妙画

問答

大津絵の答

崇禅寺焼茶碗の間

銅器彫工の間

刀剣の間

●第十号(明治十七年八月三十一日)

論説

与某賢契書

龍池会記事

明治十七年八月例会記録

第二回巴里府日本美術縦覧会記事(二)

雑記

池原日南翁伝

211

211

212

212

212

212

213

214

214

214

214

217

219

220

220

221

223

223

223

223

同好社長茅原眉山氏演説			225
在仏国巴里府本邦人某書翰			226
末松謙澄氏書翰(一)		末松謙澄	230
美術品展覧会(二)			233
雑報			
若井兼三郎氏帰朝			235
絵画の振興			235
絵画			235
犬山焼			235
画師洋行の好機			235
鳳凰堂			236
画家の滑稽			237
田能村直入氏			237
問答			
絵画彫刻前後の問		栗山人	237
龍伏の問		福島六郎	237
倭詩の答		松林温	237

大日本美術新報 第二卷目次

● 第十一号 (明治十七年九月三十日)

論説

日本美術論

リエッツォー述
斎藤鉄太郎訳

3

壁画模写

17

龍池会紀事

西陣の惨状

18

明治十七年九月例会記録

東洋絵画会

18

ビュルチー氏手簡

ビュルチー

8

腕枕と懸腕の得失

19

雑記

古画

20

漆工長寛の事

新古物品の購入

20

末松謙澄氏書翰(一)

末松謙澄

10

万国演芸博覧会

21

東照宮御一代絵巻

問答

21

絵事小言副志一則 (臨池論) (一)

田嶋定邦

12

釈迦現功の図の問

霞山桑者

22

雑報

菩提達磨の問

22

大阪絵画品評会の諭告

象牙細工鼻祖の問

風外居士

22

私立絵画共進会

本国の問

22

有馬の竹細工

焦尾の琴の問

清水楽斎

22

賞状下附

右答

臥雲

22

●第十二号 (明治十七年十月三十一日)

論説

華山翁の画話 43

画事集談会 43

画伯の墳墓 43

婦人礼服 43

幽禅染 44

有栖川宮 45

東洋絵画叢誌 45

三部経 45

古硯 45

新撰画鑑 45

読米人某氏所著美術新説有作 46

問答

刀剣の答 46

菩提達磨の答 46

彫刻の問 46

美術区分の問 46

●第十三号 (明治十七年十一月三十日)

論説

自称監定家の弊害を歎ず 51

●第十二号 (明治十七年十月三十一日)

観古美術会贅言 27

龍池会紀事

明治十七年十月月例会記録 29

雑記

銅器工亀女の逸事 30

巨勢全岡伝 31

歌楽論第一、第二 32

絵事小言副志一則 (臨池論) (一) 40

雑報

御襖絵 41

御手当金 41

美術品交換 41

賞牌授与 42

トロメン織 42

私立絵画共進会 42

参考の彫刻 42

花籠造花 43

第五回観古美術会紀事(一)		53	右答	藤田臥雲	70
雑記			磁器金画の問	雲台主人	70
歌楽論第三	末松謙澄	57	右答	山本正一郎	70
画学新意		63	朱肉の答	藤山種広	70
我国の絵画何を以て振わざるや	燃犀主人	64			
雑報			●第十四号(明治十七年十二月三十一日)		73
第五回観古美術会		66	論説		
絵画品評会		67	日本美術論批評	斎藤鉄太郎	75
象牙彫		67	雑記		
京都の陶器		67	第五回観古美術会の評論		80
東洋絵画会		68	高麗僧曇徴略伝		82
羽二重張の帛		68	鳥羽僧正略伝		83
油画額面		68	書学史		84
アニリン写真		68	工芸教育委員報告		87
羅紗染		69	雑報		
槍襖叢覧		69	皇居御襖画		88
絵画の振興		69	御画所		89
故岩倉相国		69	画幅献上		89
問答			細工蠟の発明		89
東坡像の問	鈴木政吉	70	書画彫刻		90

繪画御覽を經			90	蒔繪鼻祖の問	同	94
東洋絵画会			90	琵琶の問	同	94
暁斎の烏			90			
巨勢金岡の花鳥			90	●第十五号 (明治十八年一月三十一日)		97
英人画評			91	論説		
文晁の醉墨			91	美術の奨励を論ず	種梅鋤夫	99
美術品交換			91	美術新論	新井由三郎	101
美長唄改良			91	龍池会記事		
万国発明品出品			91	明治十七年十二月例会記録		108
金工出品			92	第五回観古美術会紀事(一)		109
聖徳太子尊影			92	雜記		
十職人総員			93	歌楽論第四	末松謙澄	112
人丸像			93	百濟河成伝		114
嵩谷図を改む			93	雜報		
巴里博物館の日本画			93	美術品交換委員		115
問答				東洋絵画会		115
潤筆の問		太田成斎	93	龍池会		115
右答		藤田順道	93	稀世の名刀		115
磁器金画の答		山田清三郎	94	新古絵画出品手続		116
鍍金の問		金田正一	94	京都画学校		117

朝鮮陶器	163	管絃書類(一)	182
日本絵	163	狩野山楽伝	181
画学改正	163	画難坊画を論ずる事(一)	180
大津絵	163	絵画改良の方法	178
紙腔琴	162	森祖仙逸事	177
画学賞牌	162	歌楽絵画余論(一)	173
京都画学校	162	雑記	
鹿の子会社	162	美術小言第二	171
音和会	162	論説	
東洋絵画会	162	●第十八号(明治十八年四月三十日)	169
狩野守住氏	161	幽禅染の問	166
工業改良	161	龍池会名の問	166
美術会	161	涅槃像の問	166
雑報		問答	
金井烏洲翁の逸事	160	職人奨励会	166
田島定邦	160	黄白銅發明	166
末松謙澄	152	蹠鞠会	164
同	156	鍔細工	164
歌楽絵画余論(一)	156	植木屋六三郎	164
画法を絃声に得	159		
円山応挙伝	149		
歌楽論第五(前統)			

御居間の細工塗

186

絵画配色の原理講究せざるべからず

種梅鋤夫

195

漆器改良

186

鑑画会講義

龍池会

187

日本画題の将来(一)

フェノロサ述
有賀長雄訳

198

日本画譜

187

雑記

音曲大研究会

187

画難坊画を論ずる事(一)

藤田臥雲

203

若冲翁

187

絵事小言

久保田米仙

207

有益の発明

188

管絃書類(一)

208

追福の書画会

188

雑報

鷲甲軍艦

189

御屏風の画

210

泉玄画鷹

189

有田陶磁器

210

金漂朱肉

190

名古屋絵画共進会

211

七宝焼、伊万里焼

190

一部五千弗

211

国債画を購う

190

京都画学校

211

三味線輸出

190

伊丹焼

211

墨汁発明

190

上意下達せず

212

絵画展覧会日延

190

東洋絵画会

212

●第十九号(明治十八年五月三十一日)

193

西陣織物の景況

212

絵画会

213

漆器輸出の事

213

稽古本編纂

214

漆器輸出の事

235

女達磨

陶漆器課税の計画

235

磧谷看梅

214

絵画会

235

●第二十号 (明治十八年六月三十日)

論説

応用美術の大意

河瀬秀治

219

古宝模写

237

織殿の出品

237

雑記

陶器製造注意

一画家を亡う

237

酒井抱一伝

一休禅師の真筆

237

狩野探幽伝

画伯死す

238

管絃書類(三)

日本村落

238

フェノロサ氏演説

フェノロサ

232

絵画展覧漫評

天倪学人

233

雑報

美術学校

234

御襖絵

234

絵画鑑定会

234

古筆会

234

音楽改良

234

華清頓府公使館粧飾具	35	年中行事画帖	41
音楽取調所	36	七宝焼	41
新調楽譜	36	応挙の画猪	41
黄土錠及代赭錠	36	寄書	
紺青採堀	36	感応美術を誘う	霞山桑者 定邦漫草 42
雲岷卒	36	日本美術鑑賞家ありや	天地一閑人 45
墨汁加胡粉	36	●第二十三号 (明治十八年九月三十日)	49
鑑画会大会	36	論説	
品評投票函	37	近日の諸絵画会果して奨励に益ある乎	無礙道人 51
文人画	37	鑑画会大会録事	53
輸出の陶器	37	雑記	
彫物師の栄誉	37	土佐光信小伝	61
三画工の揮毫	37	鉄翁画談	62
陶器製の新土	38	雑報	
改良長唄	38	日本風の御造作	64
肥前陶窯の現況	39	御屏風の絵	64
日本美術の評	40	第六回観古美術会	65
日本画の展覽	40	山本松溪氏	65
往昔の画	40	紺青発見	65
英人日本の舞踏会を評す	41		

	論説			
	日本美術工芸は果して外国需求を喚起するの力あるや否や(一)			
	フェノロサ			
	雑記			
	山水を画くの主意	103		
	大石良雄の歌	104		
	文晁筆を用いず	104		
	開口風流の御文	105		
	雑報			
	古画模本陳列	105		
	御物の書架	105		
	美術の模範	106		
	西洋油絵	106		
	清水陶器会社	106		
	奈良人形	106		
	瀬戸村の陶器	107		
	日本漆	107		
	御繕いを辞せらる	107		
	雲石	107		
	今古無比の香爐	108		
	雀合作			108
	谷口藍田翁			109
	外国博覧会景況			109
	第六回観古美術会列品			110
	寄書			
	文画誘掖			沖澹
	浮世絵師昔に替る事			藤田籃山
	陶器漆器			柳陰生
	●第二十六号(明治十八年十二月三十一日)			
	論説			
	歳晩感を書して美術奨励家に問う			今泉雄作
	雑記			
	蘇山画伯			
	名画の一筆			
	無手者能く画く			
	市川白猿翁の逸事			霞山桑者
	芸術の妙			
	雑報			
	美術省			

美術科新設

訓盲啞院

仏国美術学士

京都画学校

清涼殿の御絵図

漆器会社

西陣市場開業式祝辞

京都名産会社

八王子染工場

乾堂氏没す

和歌山県下の漆器

三井高福翁の小伝

戦地特派画工

東寺の五重塔

寄書

博物館は其本旨の如くありたし

唱歌の説

東奥賀城浪仙

田口卯吉

●第二十七号 (明治十九年一月三十一日)

論説

伊邪那岐伊邪那美二尊の像の衣服の考

雑記

絵画私論

雑報

美術学校

画学大学校

東洋絵画共進会

美術品展覧会

画工の奇癖

蓮池会及絵画会

生徒募集

美術は華族

京都銅器工の規約

東洋絵画共進会

煎茶会

鹿子会社

日本生涯の人形

美濃の陶器

宗泊寺の欄間

前田香雪

131

131

131

132

132

132

132

134

134

134

134

135

135

135

136

138

145

147

148

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

157

画学校卒業生			161	白龍山人画譜序		栗本鋤雲	182
油絵天覧			162	鉄翁画譜跋		長 炙	183
絵画品評会の出品			162	雑報			
稀有の屏風			162	第七回観古美術会			183
共進会規則			162	私立東洋絵画共進会			184
魚藍観音（漢詩）		長尾無墨	165	美術品展覧会			186
観音（漢詩）		同	165	名画蜂児を欺く			186
自画観音像（漢詩）		同	165	西京の絵絹			187
題鉄翁禅師画譜（漢詩）		同	165	陶磁製造			187
寄書				陶器師の繁忙			187
世上に画学の教科書なきを歎ず		後素生	166	陶器画品評会			187
●第二十八号（明治十九年二月二十八日）			169	京都下画工			188
論説				京都繡業者			188
鑑画会大会の広告を読む		艸月 泰	171	古器の騰貴			188
絵画論		下條正雄	173	古器物鑑定所			189
雑記				篆刻競進会			189
工部大学校を観るの記		田島定邦	176	出品画の定尺			189
鉄翁禅師の一話			179	アルバート金牌の賞賜			189
葛飾北斎伝			180	白七子下賜			190
				楽器製造家			190

●第二十九号 (明治十九年三月三十一日)

論説

日本美術工芸は果して外国需求を喚起するの力あるや否や(一)

193

フェノロサ

195

美術家の心得

藤田文蔵

198

雑記

フェノロサ氏演説大意

フェノロサ

200

金井烏洲翁の伝

202

雑報

第二回鑑画大会

203

東洋絵画共進会

204

釈迦八相の大軸

205

金細工

205

暁斎翁の記念画

205

栗田陶器

205

京都陶器商

206

陶器

206

三時観音

206

古画展覧

207

京都画学校長

207

新古書画古器物集覧会

207

朝鮮画家

208

音曲の制限

208

貿易備考

208

寄書

彫刻術の異見

朝日 升

209

●第三十号 (明治十九年四月三十日)

217

論説

第二回鑑画大会演説(一)

フェノロサ

219

陶器の説

ワグネル

224

雑記

瀧本坊昭乘伝

230

四月の美術会(一)

231

雑報

鑑画大会

236

絵画共進会

237

褒賞授与式

237

陶製五百羅漢

237

陶器製造改良館

栗田陶器

漆器類

龍池会

織物の改良

238 238 238 238 238

大日本美術新報 第四卷目次

●第三十一号 (明治十九年五月三十一日)

論説

第二回鑑画大会演説

河瀬秀治

3

第二回鑑画大会演説(二)

フェノロサ

7

雑記

着色塑像博覧会

12

四月の美術会(一)

16

雑報

美術学校

19

日本古代美術取調

19

第七回観古美術会

19

閉場式

20

日本絵画会

22

画家支那に赴く

22

外人錦絵を好む

22

陶器製造

22

大画帖

22

天井模写

22

●第三十二号 (明治十九年六月三十日)

論説

フェノロサ氏演説筆記(一)

フェノロサ

27

雑記

朝鮮国陶磁器沿革概況

小林端一

33

鑑画会の評論

37

陶器製造所濫觴

40

日本美術の効力

41

魚仙魚譜

43

雑報

日本美術品展覧会

43

一花瓶一万七千弗

44

仏国の愛刀家

44

外人日本美術を發行す

45

	私立彫刻物共進会	45	
	府下画学校設立の会議	45	
	古物保存会	45	
	音楽取調所	46	
	日本絵画会	46	
	鑑画会	46	
	清国公使の蔵品	46	
	●第三十三号 (明治十九年七月三十一日)	49	
記事			
	フェノロサ氏演説筆記(一)	51	
雑記			
	能妙神の三品	58	
	歌楽論(続)	60	末松謙澄
雑報			
	銀銅賞牌	62	
	龍池会館新築	62	
	フェノロサ氏	63	
	大美術会	63	
	美術品銅版	63	
	演劇改良会	63	
	五百日間の模写竣成	65	
	染物の新発明	65	
	欧州に於ての日本画工	66	
	新潟の漆器	67	
	東洋博物館	67	
	美術品の採集	67	
	塑蟹	67	
	群魚の図	67	
	若松の漆器	68	
	粟田焼の再興	68	
	漆器輸出	68	
	自得の旭画	68	
	陶器商況	68	
	京都商工の奮発	69	
寄書			
	絵画勸奨方法の意見	69	金沢 寿
	●第三十四号 (明治十九年八月三十一日)	73	
論説			

	龍池会規則			113
	寄書			
	絵殿の絵平等院の扉	臥雲山人		116
	●第三十六号 (明治十九年十月三十一日)			121
	論説			
	浮世絵を論じ併せて画工諸君に忠告す	無礙庵主		123
	雑記			
	工業の実況並び改良意見	ポウエル		126
	工芸者の五病			129
	演劇改良論(一)	末松謙澄		130
	雑報			
	美術局設置の噂さ			139
	彩画御用			139
	加納鉄哉氏			139
	美術彫刻組合			140
	応用美術博覧会			140
	水絵具発明			140
	東洋絵画展覧会			140
	織物、染物改良の目論見			140
	寄書			
	陶器会社設立の計画			141
	紀州漆器			141
	浮世絵考	野木斎了軒		141
	●第三十七号 (明治十九年十一月三十日)			145
	論説			
	日本美術の真面目とは何ぞや			147
	美とは何ぞや(一)	坪内雄蔵		140
	雑記			
	演劇改良論(二)	末松謙澄		154
	佐野常民君の詩			162
	雑報			
	皇居の彩画			163
	彩画御用			164
	絵画廻送の計画			164
	申楽復古			164
	絵画会の議決			164
	形付模様の陶器			165
	横浜美術博覧会			165

河瀬秀治君			165
絵画展覧の収金高			166
寄書			
美術談		烏有菴何中	166
●第三十八号 (明治十九年十二月三十一日)			
論説			
美とは何ぞや(一)		坪内雄蔵	171
日本美術品の説(一)		ハールト	178
雑記			
演劇改良論(三)		末松謙澄	183
独逸工業の盛況			185
雑報			
縮図進達			187
新古美術会規則			187
日本音楽会規則			188
工芸共進会			189
彫画製造販売商組合			189
ビュクマン氏の談話			190
名画			190
可亭翁の賀喜			190
●第三十九号 (明治二十年一月三十一日)			
論説			
美を美とせよ		無碍浪仙	195
美とは何ぞや(二)		坪内雄蔵	197
日本美術品の説(二)		ハールト	201
雑記			
日本の美術			208
雑報			
行幸啓			209
音楽学校			210
各地陶業の近況			211
水口の籐細工			212
薩摩焼陶器			212
絵画の輸出			213
婦女服制の事			214
●第四十号 (明治二十年二月二十八日)			
			217

大日本美術新報 第五卷目次

●第四十一号 (明治二十年三月三十一日)

論説

美術の美は尚俳諧の付肌の如し

無礙浪仙

3

美術論(一)

坪内雄蔵

4

日本美術品の説(四)

ハールト

8

雑記

硯材誌(一)

13

法隆寺金堂壁絵模本

17

雑報

日本の印刷絵画の評

18

漆器営業者の奮発

18

青磁会社の陶器

19

彫刻物展覧会

19

古書画の寄附

19

陶磁器絵印写版

19

音楽生徒卒業式

19

四翁の賀筵

20

勝海舟翁

20

琵琶湖の漆

20

京都陶器製造会社

21

美術論

21

西陣織物の名譽

21

陶器の改良

22

東洋絵画叢誌

22

春期展覧会

22

●第四十二号 (明治二十年四月三十日)

論説

明治十九年の美術世界

27

日本美術品の説(五)

29

雑記

王余姚の心画並画像

37

現材誌(一)

38

雑報

古物調査

40

陶器画工の手術改良法

40

美術彫刻工

40

清水焼

41

漆器景況

41

欧州活人画

41

新古美術会品目

43

四老寿筵

43

寄書

油絵の私評

K. C.

44

画工注意百種の内

高橋文治

45

●第四十三号 (明治二十年五月三十一日)

49

論説

日本美術工芸は果して欧米の需用に適するや否(一)

フェノロサ述
津田道太郎訳

51

日本美術品の説(六)

ハールト

56

雑記

久米桂一郎氏の手簡

久米桂一郎

62

雑報

御絵具下賜

66

彩漆の新発明

66

象牙細工輸出の景況

66

七宝会社

67

陶器商の奮発

67

音楽学校

67

王陽明先生の書

68

西班牙の万国大博覧会

68

書画展覧会の栄誉

68

大発明の履歴

69

四老寿筵歌

支峰頼復

70

四老寿序

天江々馬

70

●第四十四号 (明治二十年六月三十日)

73

論説

日本美術工芸は果して欧米の需用に適するや否(二)

フェノロサ述
津田道太郎訳

75

日本美術品の説(七)

ハールト

82

雑記

日本工芸を振起する者

84

日本美術品の説(Ⅵ)

ハールト

105

硯材誌(Ⅲ)

87

雑記
圀上老人の図

114

雑報

美術彫刻共進会

90

雑報

平山成信

114

肖像の彫刻

91

御用絵画

115

美術品写真

91

米国の工芸美術館

115

陶器館設立の計画

91

合田清氏

115

陶磁器製造改良計画

92

美術品製造者

115

松源楼展覧会

92

守住貫魚翁

116

硅石

93

画工山本氏

116

専売特許塗漆発色法

93

肖像画工

116

三年を期して五百羅漢を写さんとす

94

五條清水の陶窯数

116

四老寿筵歌

94

陶器用の土石

116

春雲楼称寿筵同三友賦

94

万国園芸博覧会

117

●第四十五号(明治二十年七月三十一日)

97

京都園治業組合の目的

117

論説

日本美術工芸は果して欧米の需用に適するや否(Ⅲ)

99

美術品の共同販売

118

フェノロサ述
津田道太郎訳

99

漆器製革等の取調
彫刻研究所
陶器画専修生募集

118

寄書			
美と利の差別を論し併せて諸改良論者に質す		谷本 瑛	163
●第四十八号 (明治二十年十月三十一日)			169
論説			
日本美術品の説(十一)		ハールト	171
雑記			
世界三大奇観の一(一)			179
埶国美術工業博物館附属美術工業学校規則(一)			180
浅妻舟考(一)			182
雑報			
帰朝			182
美術学校			182
三名匠遺品展観会			183
羅漢の茶碗			183
美術館落成の期日			184
美術館設立の義捐金			184
御化粧間の格天井			184
独逸の博士日本の建築を評す			185
大坂友禅染の概況			186
寄書			
日本音楽会			187
扶桑書画譜			187
高大なる宝篋塔			188
龍池会			188
陶器の景気			188
寄書			
油絵の拡張を望む		小泉 博	188
●第四十九号 (明治二十年十一月三十日)			193
論説			
鑑画会フェノロサ氏演説筆記		フェノロサ	195
日本美術品の説(十二)		ハールト	201
雑記			
狩野元信伝			206
埶国美術工業博物館附属美術工業学校規則(二)			207
劇場建築改良に関する調査委員報告		トレラー	210
雑報			
監画会演説			211
東京彫工会			211
井伊家の重宝			213

『大日本美術新報』人名索引

凡 例

- 一、本索引は、『大日本美術新報』全五巻中の記事執筆者及び記事見出しに掲出する人名を五十音順に配列したものである。
- 二、掲出箇所は、巻数を○数字で、頁数を漢数字で表示した。
- 三、記事執筆者の場合はゴシック体で、見出し中の人名の場合は明朝体で掲出頁を示し、見出し中のみ掲出する人物は、その人名を明朝体で表記した。
- 四、() 内に “|| (イコール)” でつないだ人名は、本書では使用されていないが一般に通じている別名を補足的に加えたものである。“||” のない人名は本書中に掲出する別名である。
- 五、人名は、原則的に全て新字体に統一した。

あ

秋月敬堂

①九三

朝日升

③二〇九

新井由三郎

②一〇一

有賀長雄

②一九八 ③三

安仲生(安藤仲太郎)

⑤二三六

い

池原日南

①二一〇・二二三

伊澤修二

⑤二二八

市川桂齋

①一四二

市川白猿

③一三〇

一休

②二三七

今泉雄作(無礙庵主、無礙道人、無礙浪仙、無疑道人、

無碍道人、無碍浪仙)

①一二七・一七八・二一九 ②一

四七 ③二七・五一・一二三 ④一

岩倉相国

②六九

う

植木屋六三郎

②一六四

植園田夫

①九四

ウォーレス

⑤二二六

烏有菴何中

④一六六

運慶

①一八四

雲台主人

②七〇

え

江越禮太

①一五七

烟(煙霞散(山)人)

④七五・七九

お

応挙↓円山応挙

王 昭 君 ④九〇

王 陽 明 ⑤六八

王 余 姚 ⑤三七

大石 良 雄 ③一〇四

大内 青 巒 ①三・四三・五一

大嶋 孝 三 ①二二

太田 幾 三郎 ①一六六

太田 恭 齋 ①二一四

太田 成 齋 ②九三

大森 惟 中 ①一一五

岡倉 寛 三 (種梅鋤夫、
鉄槌道人 || 岡倉天心)

②九九・一九五 ③九二 ⑤二二

九

尾 形 光 琳 ②一七

尾 咲 松 闇 ④九三

か

柿本人麻呂 (人丸) ②九三

華山 (|| 渡辺華山) ②四三

霞山桑者 ↓ 田島定邦

カステル ①九一

加地爲助 (|| 加地爲也) ①一一五

勝海舟 ⑤二〇

葛飾北斎 (北斎) ②一一八 ③一八〇

可亭 ↓ 羽倉可亭

金井 烏 洲 ②一六〇 ③二〇二

金沢 寿 ④六九

金田 正 一 ②九四

兼松 石 居 ③一三

狩野 山 楽 ②一八一

狩野 晴 川 ③三三

狩野 探 幽 ②二二八

加納 鉄 哉 ④一三九

狩野 董 川 ③三三

狩野 元 信 ⑤二〇六

狩野 守 住 ②一六一

茅原 融 川 ③三二

川崎 千 虎 ①二二五

①七〇・一六四

河瀬 秀治 ①四 ②二一九 ③七八 ④三

・一六五

臥雲(臥雲山人)↓藤田臥雲

き

徽 宗 帝 ①一四〇

橘 堂 主人 ②一一八

杞 憂 居士 ②二三三・一七一

恭 宇 逸 史 ①二二・六九・一四二

狂齋(河鍋暁齋) ①一六二 ②九〇 ③二〇五

旭 字 ④一一一

宜 莊 主人 ②五一

暁齋↓狂齋

<

百 濟 河 成 ①一八六 ②一一四

久保田米僊(米仙) ①八五 ②二〇七

久 米 桂 一郎 ⑤六二

栗 本 鋤 雲 ③一八二
栗 山 山 人 ①二三七

け

不 可 堂 ⑤四四

乾 堂 ③一三四

下 条 正 雄 ①六九 ③一七三

月 岬 散 人 ②四六

こ

小 泉 博 ⑤一八八

篁 雨 居 士 ①九四・一一八

江 涯 生 ①一二三

靠 嶋 子 ①一九〇

耕 石 ①六七

後 素 生 ③一六六

木 暮 矢 齋 ②一一八

古 江 隠 士 ①九三

湖雪 迂生 ①四六
 巨勢 金岡 ②三一・九〇
 小林 端一 ④三三
 コンテール(≡コンドル) ①四一
 近藤 良斎 ①四六
 合田 清 ⑤一一五
 良離 仙 ③七五

さ

齋藤 鉄太郎 ②三・七五・一三三
 酒井 抱一 ②二二七
 佐々木 祐道 ①一九〇
 佐々木 良庵 ①七〇
 里見 貞 ②一一八
 佐野 常民 ①一四七 ④一六二

し

柴田 良斎 ②二二

支峰 頼復 ⑤七〇
 清水 楽斎 ②二二
 積 迦 ②二二 ③二〇五
 種梅 鋤夫 ↓岡倉 寛三

松花 堂 ①二〇二
 嘯々 子 ①四六

聖徳 太子 ①一七六 ②九二

深江 ①四二

信天 老人 ①二二

若冲 ②一八七

す

末松 謙澄 ①二三〇 ②一〇・三二・五七・

一一二・一三七・一五二・一五六

・一七三 ④六〇・一三〇・一五

四・一八三

鈴木 政吉 ②七〇

駿台 迂人 ③九四

寸鉄 居士 ②四六

せ

雪香居士 ①一九〇

雪舟 ①九四・一五九・二〇八 ③八

二

そ

艸月泰 ③一七一

荘田瞻斎 ①一四〇

蘇山 ③一二六

た

高橋新吉 ①九二

高橋文治 ⑤四五

瀧本坊昭乗 ③二三〇

田口卯吉 ③一三八

武内藤太郎 ②一一八

田島霞山↓田島定邦

田島定邦(田島霞山、霞山桑者)

①一三五・一八一・一九〇 ②一

二・二二・四〇・四六・一六〇

③四二・一三〇・一七六

①九四

③一〇九

⑤一六三

③三三

①二三七

②一四二

ち

竹田居士 ③三三

千早定朝 ①一七六

沖澹 ③一一一

長炙 ③一八三

達磨大師 ②一四二

田能村直入 ①二三七

田能村如仙 ③三三

谷本瑛 ⑤一六三

谷口藍田 ③一〇九

多田順道 ①九四

つ

津田 道太郎 ⑤五一・七五・九九

坪内雄蔵(↑坪内逍遥) ④一五〇・一七一・一九七・二一

九 ⑤四

对藪 逸史 ①一六六

て

鉄槌道人↓岡倉覚三

鉄 翁 ③六二・一六五・一八三 ④一七

九

天倪 学人 ②二三三

天江 々馬 ⑤七〇・九四

天地 一閑人 ③四五

と

東奥賀城 浪仙 ③一三六

床次 正精 ④九三

土佐 光信 ③六一

鳥羽 僧正 ②八三

トレッセル ③七〇

トレラー ⑤二一〇

土居 霞外生 ①二一三

曇 徴 ①一四二 ②八二

な

長尾 無墨 ③一六五

永瀬 子磧 ①一六六

に

如意谷 鉄臣 ⑤九四

ね

燃犀 主人 ②六四

の

野木斎 了軒

④一四一

は

ハールト

④一七八・二〇一・二二五 ⑤八

・二九・五六・八二・一〇五・一

二三・一四七・一七一・二〇一・

二二四

羽倉可亭(可亭)

①一四二・一九〇 ⑤一三九

塙 敬子

①四六

ひ

蜚 鴻 堂

①二一四

人丸↓柿本人麻呂

平尾 魯仙

③一三

平賀 義美

③六

平山 成信

①二七・七五・九九・一七一・一

九五 ②二七 ⑤一一四

ビュクマン

④一九〇

ビュルチー

②八

ふ

風外居士(風外)

②二二 ③六七

フェノロサ

②一九八・二三二 ③三・九九・

一九五・二〇〇・二一九 ④七・

二七・五一・六三・九九 ⑤五一

・七五・九九・一九五

深瀬 真道

①二二

福島 六郎

①二三七

藤田臥雲(臥雲、臥雲山人)

①一八七 ②二二・七〇・一八〇

・二〇三 ④一一六

藤田 順道

②九三

藤田 文蔵

③一九八

藤田 籃山

③一一六

藤山種広 ②七〇

フヒロイ ①一二三

ブルック ①一七八

文晁 ②一六・九一 ③一〇四

ほ

北斎↓葛飾北斎

ポウエル ④一二六

ま

昧童子 ②一四二

前田香雪 ③一四八

真木雲外 ②一四二

真瀬木真哉 ①二〇六

松田広道 ②一一八

松林温 ①四六・二三七

松林真明 ①一一五

松本公二 ④一〇四

円山応挙 ②一四二 ③四一

み

三井高福 ③一三五

皆川如雲 ①一九〇・二二四

宮下高樹 ①四六

明兆 ②一三六

む

無礙(無疑、無碍)庵主(道人、浪仙)↓今泉雄作

も

木々居士 ①一一八

守住貫魚 ①一八四・二〇七 ⑤一一六

森祖仙 ②一七七

モンテギユ ①二七・七五

や

山口 水哉 ② 一一八

山田 清三郎 ② 九四

山本 松溪 ③ 六五

山本 政一郎 ② 七〇

ゆ

遊施 福多 ① 一一五

よ

養老 仙史 ① 七〇

養鶴 徹定 ① 二〇八

横内 範二 ② 一六六

吉川 真道 ① 一一八・一四二 ② 四六

ら

磊々 散人 ① 一四二

ラグサ(ラグーザ) ① 一三四

楽花居士 ① 一一八

ラブルーレー ① 九九・一七一・一九五

り

リエッツォー ② 三

陸相 邦 ① 一八二

柳陰 生 ③ 一一八

柳丘 老漁 ① 七〇

わ

若井 兼三郎 ① 一三五

ワグネル ③ 二三四 ⑤ 一五二

渡辺 耕田 ② 一一八